

冬優子と男女の仲になった俺は
彼女にフェラチオを
してもらったことになった。
最初は事務所でするのは嫌と
拒絶されたが必死に頼み込むと
渋々了承してくれた。

あつ
冬優子の瑞々しい唇が
俺の亀頭に……!!
くうっ!やば……!

んちゅっ♥んぶ♥
うっさいわね♥♥
これくらいね♥の事で
いちいち騒がないで♥

んんん♥

ちゅっ♥

それじゃあ
今からフェラチオ
やるわよ♥





んちやぢん
んンっゅ
っポぱあ
ふ大きい
ういわた
わのん
ねん
♡♡♡♡♡

口の中に唾液を呑むと
冬優子はおもむろに
俺の屹立した肉棒を
飲み込んでいく。

うああっ！
すっすごいっ！
俺のチンポが
冬優子の口の中に！

ちんぽっ♡

Ma Ma

そんなに臭うのか？
毎日洗ってるが…

ぢゆるるるっ♡ぢゅぶ♡
ええそっよ♡あんたの
オスクさい匂いで頭が
クラクラするわ♡

ぢゆるるるっ♡ぢゅぶ♡ぶふ♡
あんたのは相変わらず♡
くっさいチンポよね♡ぢゆるっ♡
ちゃん毎日洗ってるわけ？♡
ふゆにこんなおしやぶらせる
なんて…♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

頼み込んだ俺が
言うのもあれだが
そこまで酷いなら
止めても大丈夫だぞ

ぢゅぶ♡
ぢゅぶ♡

ぢゅぶ♡
ぢゅぶ♡

冬優子はさらに激しく
口で奉仕し始める。
黒色の髪をためかせながら
夢中で俺の肉棒にしゃぶりつく。
緩急の付け方も絶妙で
快楽で一気にもって
行かれそうになった。

ッ
ホントに嫌ならこんな事
するわけないでしょっ
ったるわね
構えてふゆあんたはどっしりと
集中しなさいっ！
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

ちゅぷっ♡ちゅんぷっ♡
ちゅぽ♡ちゅろろろ♡
また大きくなってる♡♡♡

ちゅぷっ♡
ちゅんぷっ♡
ちゅぽ♡
ちゅろろろ♡

Fantasy
Sensations

冬優子は端麗な顔を崩し
俺のチンポを激しく吸い付きはじめた。
水気の含んだ卑猥な音をもらしながら
激しく柔らかい唇で愛撫する。
本気でザーメンを搾り取る気だ。

んっ♡ぬぶっ♡ぬぶっ♡
ぢゅるるる♡んちゅっ♡
ふゆがここまで♡奉仕して
あげてるんだから
ちやんと見てなさいよね♡

ああ…!
冬優子のチンポフェラ
とてもエツチだ!

そろそろ
イかせてあげるから
チンポに神経を集中しなさい♡

んっ♡
んっ♡
んっ♡
ぢゅる♡
ぢゅる♡

冬優子は喉奥までチンポを
啜えこみ出し入れし始めた。
溢れ出した唾液で滑りがよくなり
唇の密着感により一段と高まる。
俺自身にも熱い欲望が
上ってきた。

んんっ♥んんっ♥ぬぶっ♥
あんたの極太チンポぶるぶるしてる♥
もうイキそうなんですよ♥
ぢゆるううう♥ぢゅこおお♥
いいわ♥ふゆのお口まんこで
ビュ〜ってくっさい白濁ザーメン汁
射精しなさい♥



ダメだっ!
もう射精るっ!

んんっ♥

んんん♥

んんん♥

ぢゅこおお♥

ぢゅこおお♥

ぢゅこおお♥

びゅ〜

ドピュッ♡♡♡ピュッ♡♡♡
どくう♡♡♡どくん♡♡♡
びゆる♡♡♡る♡♡♡
♡♡♡♡♡♡♡



ゴッ
どく

ドッ
どく
どく

どく
どく
どく
どく

どく
どく
どく
どく
どく

どく
どく
どく

どく
どく

どく

どく

ぢゅるるるっ♡ちゅーっ♡
熱くてくさいのが…!!
ぢゅぷっ♡こくのっ…!!
ぢゅここの♡なんて濃い
の
しかもこの量…♡
全部飲み込めない♡

ありがとう冬優子
とても気持ちよかったよ
よかったら冬優子も
気持ちよくしてあげようか？

バカ♡調子に乗らないで♡
まあ…でも…
ふゆのためにもっと
頑張ってくれたなら
頑張ってあげてもいいわよ…♡

ゴクッ

ゴクッ♡

ぢゅ♡
ぢゅ♡
ぢゅ♡

ゴクッ

ぢゅ♡















